

令和4年度 公益財団法人富山市ファミリーパーク公社事業計画

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

I 基本方針

「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、呉羽丘陵の豊かな自然の中で、日本産動物の飼育展示や希少野生動物の保護増殖、在来家畜の保存を行い、多様な生物の世界やいのちのつながりを伝えるとともに、園内の里山を活用・整備し、健康増進や癒しの場を提供しながら市民とともに新しい里山づくりに取り組む。

また、近隣の地域住民や各施設・団体と連携して無料区域から呉羽丘陵一帯につながる自然を活用する事業を充実させ、呉羽丘陵にある里山の魅力を園内外に向け情報発信しながら、地域に根差した園づくりを進めていく。

さらに、県内外からの利用者に向けて誘客事業の充実を図り新規顧客の獲得と利用者の拡大を図る。

II 事業計画

1 熱帯鳥類保全事業の推進

(1) 熱帯産鳥類の保全を目的に富山市へ寄附された寄附金で設置された基金を活用して富山市が建築を進めている熱帯鳥類保全施設について、令和4年秋の公開に向けての準備を進める。

(2) 熱帯鳥類保全施設の公開後の運用に向けて、市民への周知および公開イベントを富山市と連携し実施する。

2 「富山市 SDGs 未来都市計画」協力事業

(1) 富山市が普及啓発に努める散策路「呉羽丘陵フットパス」を活用し、有料・無料区域の各種事業と呉羽丘陵全体とを結びつけた環境教育事業を企画・実施し、呉羽丘陵の拠点施設としての機能を充実させるとともに、「富山市 SDGs 未来都市計画」における市民の歩くライフスタイルへの転換の推進に協力する。

(2) 富山市や各種団体、企業、大学等と連携を図りながら企画運営、コーディネート、プロデュースできるネットワークやシステム作りを推進する。

3 新整備計画の推進および老朽化対策を見据えた事業

富山市が平成 23 年に策定したファミリーパーク新整備計画や施設の老朽化対策について富山市と協議するために、市民を対象としたアンケート（利用状況やニーズなど）や他の動物園の聞き取りなど、必要な調査を実施する。

4 富山市ファミリーパーク開園 40 周年記念事業

昭和 59 年に開園した富山市ファミリーパークは、2 年後の令和 6 年に開園 40 周年を迎えることから、40 周年記念事業の企画について富山市と協議しながら検討を開始する。

5 ライチョウ基金事業

(1) 基金を有効に活用し、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、JAZA）と連携し進めている国のライチョウ保護増殖事業における飼育繁殖技術の確立や人材育成を支援するとともに、多くの人に、ライチョウの現状や保全の必要性を伝える普及啓発事業を推進する。

(2) 基金への寄附を引き続き、広く市民・県民・国民に募っていく。また、公社の自主事業でオリジナル商品を開発し、その一部が寄附される仕組みを継続する。

6 新規希少動物保全基金事業

(1) 新設した基金を活用し、生物多様性の保全に寄与することを目的に希少動物の飼育・繁殖技術の確立に向けた技術開発および人材育成に取り組む。また、この取り組みに必要な普及啓発を推進する。令和 4 年度からは、国際希少野生動物であるヨウムの繁殖プロジェクト事業を立ち上げ、野生復帰を想定した繁殖技術の確立を目指す。

(2) 基金の目的を広く周知し、基金への寄附を募っていく。また、公社の自主事業でオリジナル商品を開発し、その一部が寄附される仕組みをつくる。

7 公益目的事業

(1) 施設管理事業

安全性を確保し、利便性を向上することで、入園者が安心して快適に過ごせる施設を目指す。

① 維持管理

快適な園内環境を来園者に提供するために、建物および設備等施設の維持管理を行う。

② 利便性の向上と安全管理

施設の安全対策を徹底し、老朽化に伴う改修を計画的に行うことで、入園者の利便性の向上や安全性の確保を図る。

③ 入園料の徴収

入園料の徴収受託事務を行う。

④ 感染症対策

新型コロナウイルス、豚熱、鳥インフルエンザ等の社会的に影響が大きい感染症について、入園者・動物・職員に対する衛生管理を徹底することにより感染拡大を防ぐことに努める。

(2) 動物管理事業

いのちの大切さや、人と動物のかかわり、生物の多様性を伝えることを目的に、動物の展示および教育啓発に努める。

令和4年度は、富山市とともに進めている熱帯鳥類保全施設の公開に向けて動物搬入および展示の準備、管理体制の整備などの準備を進めるとともに、公開後の飼育展示事業、繁殖研究事業、教育普及事業の推進に努める。

① 飼育展示事業

各々の動物の特徴的な形態や行動の展示を充実させることで、生物の多様性について伝えるとともに、親子の展示などを通して、いのちの大切さを伝える。また、日本産の動物の繁殖による展示を充実させ、野生動物と人と里山環境との関係について伝える。さらに、日本在来家畜の展示を通して、日本人との関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

これらの展示を充実・発展させるために、コレクションプラン（別添資料2）に基づいた動物の収集を進める。

また、種の保存および展示・教育活動をより推進するために、動物福祉を適切に保つ方法について検討を開始する。

② 繁殖研究事業

コレクションプランに基づいて動物種ごとの繁殖に取り組む。特に国内外の希少野生動物について、JAZA（他の国内飼育園館）や関係機関等と連携して、繁殖研究に取り組み、飼育繁殖技術を蓄積し、保護増殖に努める。

また、飼育繁殖技術の継承を図るため、人材育成とその組織作りに取り組む。

③ 教育普及事業

幅広い年齢層を対象とし、動物を活用した各種ガイドや体験プログラムを実施し、生物の多様性や人と動物のかかわり、いのちの大切さについて伝える。

季節に応じた催物を企画・実施し、さまざまな視点からの普及啓発に努める。さらに、実習や研修を受け入れ、動物を通じた教育活動に取り組む。

また、飼育・繁殖にかかわる調査研究によって得られた成果や情報を、展示や各種研究会、講演、出版などを通して、市民に提供する。

④ ライチョウ保護増殖事業

環境省のライチョウ保護増殖事業計画および JAZA のライチョウ生息域外保全計画に基づき、野生復帰を想定した自然繁殖技術の確立を目指し、科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。また、環境省が行っている中央アルプスにおけるライチョウ野生復帰事業に協力する。

さらに、ライチョウの展示を通して、その生息状況や保全の大切さを伝える普及啓発する。

⑤ ヨウム繁殖プロジェクト事業

希少動物保全基金を有効活用し、令和4年からは、熱帯鳥類保全施設で飼育を開始するヨウムについて中部大学が受託している JICA 草の根技術協力事業「ウガンダ共和国 絶滅危惧種ヨウム保全の地域連携モデルケース構築支援」事業と連携し、ウガンダ野生生物保全教育センターと協働で野生復帰を想定した繁殖技術の確立を目指す。

⑥ ホクリクサンショウウオ域外保全事業

絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの飼育・繁殖に取り組み、園内を中心とした呉羽丘陵での生息域内保全および生息域外保全に向けた科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。

また、その生態展示を通して、ホクリクサンショウウオの生息環境の現状を伝え、里山環境の保全の大切さについて普及啓発に努める。

⑦ 在来馬保全活用事業

木曾馬や野間馬、対州馬等の在来馬の展示や乗馬体験事業の充実を図り、日本人と在来馬の関わりや文化の普及啓発を図る。また、木曾馬については、「木曾馬の里」（一般財団法人開田高原振興公社）と連携して種付けをおこない、令和5年度の繁殖を目指し、在来馬の保存を図る。

(3) 地域事業

ファミリーパークや呉羽丘陵で地域の施設や団体・住民と連携し、自然や文化、健康などをテーマとした催物を実施し、地域の魅力を伝えることで、幅広い年齢層の市民の誘致を図り、ファミリーパークの呉羽丘陵における拠点施設としての役割を充実させる。

① 悠久の森事業

悠久の森実行委員会に参画し、呉羽丘陵を広く活用した事業の推進に努める。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、主要事業であるフェスタが2年間中止となっていることから、連携事業を企画・立案し、悠久の森事業の継続および拡充に寄与する。

さらに連携事業である「悠久の森 ホクリクサンショウウオ保全プロジェクト」では、絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの環境整備活動や小学校への出前授業により現状や保全の必要性を伝え、呉羽丘陵をホクリクサンショウウオの生息地として地域で守っていく仕組みづくりに努める。

② 輝け！いのちの集い事業

輝けいのち協議会に参画し、いのちの尊さを普及啓発する催物「輝け！いのちの集い」を、学校やPTA関係者などと連携し実施する。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2年間は中止または規模の大幅な縮小による開催となった。令和4年度は、新型コロナウイルスの拡大も想定した催物の企画・立案に協力することで、本事業の持続・発展に寄与する。

③ 地域連携事業

富山市や県内の学校、団体・企業などと連携を図り、自然、健康、スポーツ、文化等をテーマとして、ファミリーパークや呉羽丘陵を活用した催物を実施する。また、その連携を強化し、連携のネットワークを構築することで、ファミリーパークの呉羽丘陵における拠点としての役割の充実を図る。

④ 活性化事業

ゴールデンウィークやシルバーウィークなど季節に応じた催物を企画・実施することで来園者の誘致を図る。夏から秋にかけて開園時間を延長し、夜の動物園や自然散策を楽しむ機会を設ける。

また、動物友の会では、動物や自然とのふれあいなどのさまざまな企画を通して、ファミリーパークの魅力の普及啓発に努め、世代を超えた利用の促進に努める。

さらに、障害をもつ児童を対象としたプログラムを実施し、動物園の社会的役割の充実を図る。

⑤ 広報・広告事業

ホームページ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用

してファミリーパークからの様々な情報提供の充実に努める。

(4) 里山事業

園内の自然環境の保全を図り、里山に生息する野生動植物に関する調査研究活動を実施するとともに、市民が園内および呉羽丘陵で里山の自然を楽しみながら知ることができる事業を実施する。

① 里山保全管理・整備研究事業

悠久の森実行委員や市民いきものメイト、呉羽丘陵にホタルを呼ぶ会などの学校や施設、団体と連携し、園内の自然の保全や、ホクリクサンショウウオやホタルの生息域内保全を推進する。

② 里山活用事業

展示や解説をとおしてムササビや野鳥など園内の野生動物や自然についての普及啓発を推進する。また、ホタルについては発生時期に合わせて夜間開園し、夜の自然散策を楽しむ機会を設ける。

さらに、実習や研修では、動物展示に加えて園内の自然を活用することで、質の高い事業展開を図る。

8 収益事業等

(1) 遊園地維等受託事業

遊具の点検・整備を行い、利用者が安心・安全に利用できる運行に努め楽しく利用できるように努める。

① 維持管理

各種法定検査等を実施しながら、運行の安全性の維持を図る。老朽化が進んでいることから、今後の運営方針について市と協議する。

② 安全管理

施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。

③ 遊具使用料の徴収

遊具使用料の徴収受託事務を行う。

(2) 自主事業

施設内の利便性を向上させ、移動販売車の出店や臨時ショップの営業など食や賑わいを創出する事業を推進する。また、入園者の動向や要望を見ながら経営形態を見直し、経営改善を図る。

① 売店・食堂事業

ファミリーパークのオリジナルメニューや商品の開発に努める。また、季節やイベントと連携した企画を立案し、販売促進に努める。

② ホースライド事業

在来馬を中心とした乗馬、障害者乗馬会などを実施し、エサやり体験などを行う。

9 法人会計

(1) 公益財団法人として適正な運営に努める。

(2) 公社の財務会計及び予算・決算等の経理を行う。

(3) 指定管理者としての指定申請事項に基づく法令等の遵守。

10 ファミリーパーク施設使用料徴収受託事業

入園者見込数	内 訳		
	有料エリア	224,400人 (有料入園者数67,550人)(無料入園者数156,850人)	
	無料エリア	105,600人	
	総入園者数	330,000人	
入園料	36,960千円	個人大人500円 × 56,000人	28,000,000円
		団体大人400円 × 7,000 人	2,800,000円
		個人70歳以上250円 × 500人	125,000円
		共通パスポート (販売) 1,500円 × 4,000人	6,000,000円
		3日間共通パスポート700円 × 50人	35,000円
遊具使	18,950千円	アニマルコースター等 200円 × 79,000回	15,800,000円
		電気周遊車100 円 × 11,500回	1,150,000円
		ボート 400円 × 5,000 回	2,000,000円
合計	55,910千円		